

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500050		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 いずみの里		
所在地	栃木県鹿沼市泉町2396-3		
自己評価作成日	令和6年9月1日	評価結果市町村受理日	令和7年1月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	令和 6年10 月31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

泉町に地域密着サービスを始めて16年目となります。ご利用者を始め、ご家族、地域の方々にもご利用しやすい場所になるよう職員共々笑顔と誠意のある対応ができるように、心のゆとりを持ちながら努めているところです。地域の方々からお庭の草むしり等をして頂けたり、近隣の民生委員の相談窓口として対応しています。地域に寄り添える施設作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の東側には黒川、西側には千手山公園が広がり、自然豊かな閑静な住宅街の中に位置している。近くにはホームセンターや百貨店、図書館があり利便性も高い。老人会が事業所敷地の草むしりをしてくれたり、地元小学校の運動会に招待されたり、地域との交流も盛んである。秋祭りの際には、事業所に彫刻屋台やお囃子が来てくれ、利用者の大きな楽しみとなっている。LINEやブログを活用して、家族への連絡や利用者の普段の様子を伝えることにより、家族の安心につながっている。近隣住民が緊急連絡網に入ってくれたり、災害避難時には見守りをしてくれるなど地域との協力体制ができています。敷地内の畑で収穫した新鮮な野菜を食材として利用したり、季節の行事食やお誕生会のケーキなどを取り入れ、食事がより楽しみになるよう支援している。職員は、「気づき」と「尊重」の理念を念頭に日々の介護に努めており、利用者は穏やかな時間を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「気づき」と「尊重」を職員間で共有し毎年各事業所にて目標を掲げて実践に繋げている。	法人理念を踏まえ、毎年職員で話し合って事業所目標を作成している。職員は理念・事業所目標を念頭に置き日々のケアに努めている。年に1回、事業所目標を実践できているか振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりやお祭りに参加している。学童や小学校からの行事のお誘いにはできるだけ参加できるよう努めている。	自治会に加入し、防災研修に参加している。秋祭りには、事業所駐車場に彫刻屋台やお囃子が来て、利用者の楽しみとなっている。ハロウィンに近隣の学童が事業所を訪れたり、地域の夏祭りに参加するなど交流を図っている。魚のおすそ分けがあるなど近隣住民との交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人ブログに行事等の報告を載せている。高校生の体験学習への受け入れをするも今年は体験者は来ず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開く。委員の方からのご意見を反映して対応している。委員の方が所属している老人会の方々が草刈り等を行っていただいている。	コロナ禍による面会制限を一部緩和するなど、運営推進会議で出た意見を反映させている。利用者状況や運営状況、行事、事故などの報告を都度意見・提案を求めながら行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課職員が運営推進会議に参加し、状況報告、確認等を行なっている。包括支援センターと連携をとり、介護が必要な方々に円滑に介護サービス等の情報を提供できるよう努めている。	管理者は、日頃から市や地域包括支援センター職員とコミュニケーションを図り、相談しやすいと感じている。運営推進会議の議事録を持参して市担当者に渡すなどして、顔の見える関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0名。内部研修を行ない、周知徹底を図る。スピーチロックを行なわないよう努めている。	身体拘束に関する内部研修やZOOMによる外部研修を通して、身体拘束について正しく理解し、拘束のない介護を実践している。スピーチロックは気づいた時に管理者や職員同士で注意をし、抑圧感のない介護に努めている。利用者が外に出て行きそうな時は、一緒に歩いたりして気持ちを落ち着かせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に内部研修を開き、周知徹底を図る。日々の心身状態変化を見落とさずに、変化あった際はご家族へ速やかに報告をしている。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人やアステラスに関する相談はあるが、対象となったご利用者はおらず。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、ご家族に担当職員が説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とライン交換をしている。来所された際には必ず会話をでの連絡や相談を密に行なっている。	利用者には日頃のケアの中で意見・要望を聞くように努めている。家族には面会や利用料支払い時に、意見・要望を聞きとり反映させている。LINEを使って利用者の普段の様子を家族に伝え、意見・要望が出やすいよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は現場責任者の介護主任経由にてセンター長に伝わる仕組みになっている。	職員の提案で水分をスポーツドリンクにしたり、消耗品の購入など職員意見を反映させている。職員が自宅から食材を持参し食事を作りたいという要望も、計画書や報告書等きちんと手続きを経て行うようにした。職員は日頃から管理者等に意見を言いやすいと感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行ない、一人ひとりの職員が目標、反省を自己評価し、上司と面接を行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修や、事業所内での内部研修を行なっている。WEB研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年はグループホーム協会の研修に参加。近隣のグループホームとの交流を行う。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、担当職員等から情報を頂き、どのような生活を送りたいのか等の意向を聞かせて頂いている。入所後も確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にご家族の不安や要望等をしっかりと聞き取るとともに、ご家族が知るご本人の思いや嗜好を聞き取れるようにしている。		
17		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申請書欄に書かれている内容と現在の状況を確認している。当施設や他の施設との違い等を踏まえて説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、お皿拭き、お菓子作り、野菜の収穫等への参加を促している。それぞれにあった嬉しい気持ちでできることを見極め、やって頂く機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等が来所された時に体調やご様子を報告相談している。ラインにて報告相談している。面会ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ等が流行している際は人数制限、面会方法、等の制限があるが、それ以外は大きな制限はしていない。馴染みの人の面会は時々ある。馴染みの場所でのお祭りに参加している。	近所の人や馴染みの人と面会ができるようにし、関係が継続できるよう努めている。お墓参り、親族の葬儀、自宅などにも家族付き添いで出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性を見極めつつ、職員がさりげなく間に入ることで、レクリエーションやお茶飲み、会話などが楽しめるよう支援している。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談や、支援をする事例はなかったが、必要に応じて支援する体制はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・会話に加え、表情や仕草などから思いを汲み取り、それを尊重する意識で接している。 ・暮らし方の希望、意向を書き留めるシートがあり、職員間情報を共有している。	日頃の会話から思いの把握に努めている。会話が困難な利用者は、その人の生活歴、性格から、どんな暮らしがしたいかを職員で話し合っており、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・上記シートを活用し、新入職員、異動職員がある都度、利用者一人一人の情報として伝達を行っている。また、担当者会議の場で、家族からの情報として、当施設利用までの様子がどんなものだったのかを知り、職員間で共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・出勤時、ケース記録と他職員からの申し送り内容を確認し、一日の様子を観察し、把握できるように努めている。 ・利用者各々に担当職員をあて、それぞれが中心となって現状の生活に必要な事を把握、支援していく上で、他職員とも情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・食事量やバイタル等を月ごとに記入する観察ケア記録表に、ポイントとなるケアプラン実施チェック欄を作り、実施の様子を把握しやすくしている。月ごとのモニタリングに反映させ、本人や家族の意向を聞き取り介護計画作成に反映させている。	本人・家族の意見・要望を聞きながら、協力医療機関等とも連携し介護計画を作成している。6ヵ月に1回の担当者会議において、本人・家族の意向を踏まえ介護計画の見直しを行っている。ADL変化時など状態が変わった時も、その都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録と併せて上記の観察ケア記録表に随時実施内容を記入し、現状の把握と職員間での共有を図っている。また、実践と介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要物品購入の際、家族だけでなく、担当職員のほうでも率先して対応を行っている。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域住民の協力の基、市内秋祭りの見学を楽しんでいたり、近辺の学童児童訪問による交流、小学校での運動会見学等、地域交流の機会を作る事ができた。 ・地域住民のボランティアとの協働により、施設内の除草作業、美化活動を行う事ができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人及び家族の希望に添ったかかりつけ医にて医療が受けられるよう支援している。受診自体は基本的に家族同行となり、その際は食事量やバイタル等を記入した観察ケア記録表を渡すと共に口頭説明も加え、医師に様子が伝わるようにしている。 ・さつきホームクリニック、訪問看護ステーションに協力を依頼し、受診外出等が難しい方への支援に繋がるようにしている。	本人・家族の希望により、家族付き添いによるかかりつけ医か協力医療機関の訪問診療を受診できるよう支援している。かかりつけ医受診後には、薬の変更など受診結果を共有している。医師の説明を聞く必要がある場合は、職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・同施設内の看護職員にバイタルや心身の状態を伝達し、変化があれば相談等行う。 ・訪問看護を依頼しているご利用者の状態に関して、月2回の訪問時以外においても、特変時状態を報告し、対応依頼や指示を仰ぐようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入退院時に病院関係者、家族と話し合う機会を作り、情報共有を図り、安心して治療を受けてもらいながら早期退院ができるよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ターミナルケア指針の説明をし、同意を得、重度化した場合や終末期の意向を確認している。現在ターミナルケアを行っている方はいない。	入所時に、事業所でできることとできないことを利用者・家族に丁寧に説明している。状態変化があった時にも、終末期の対応について家族と話し合っている。ほとんどの利用者が事業所で最期を迎える意向をしている。看取りの体制はできている。	看取りの際に関わる医師について、これまでの協力医だけでなく、訪問診療医への変更を検討するなど、スムーズなターミナルケアができるよう期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変や事故発生時の対応についての研修を実施している。入職・異動職員にも順次伝達を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に防災訓練を行っている。近隣住民も緊急連絡網に入って協力を得られる体制を整えている。 ・BCP訓練について、全職員と共有を図っている。また、BCP関連の外部研修に積極的に参加できるよう努めている。	避難訓練では消防署の立ち会いのもと消火器訓練を実施している。火災報知機に連動して、自治会長など近隣に自動的に連絡される設備・体制がある。避難時には近隣住民の利用者見守り等協力体制ができている。水、レトルト食品、缶詰め等約3日分を備蓄している。	水害時について、現実的かつ利用者の安全を考慮し、状況によっては併設の小規模多機能型ホームを避難場所にするなど柔軟に対応することを期待したい。

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・1人ひとりの尊厳を大切にし、ご利用者にとって心地よく、温かい接し方ができることを目標として取り組んでいる。 ・申し送り等で、他ご利用者の情報が周囲に聞こえないよう配慮している。	命令的な口調にならないよう心掛けている。排泄・入浴の声掛けは周囲に配慮し、プライバシーを損なわないよう対応をしている。重要書類は鍵をかけて保管している。利用者の呼び方は苗字にさん付けで、尊敬の気持ちをもって接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自ら職員業務の手伝いを希望される際、安全な範囲で任せられる事を一緒に実施している。 (テーブル拭き、洗濯物たたみ、料理等) ・「○○さんの側に行きたい」と希望があった際は、別のテーブルを用意し、少人数グループの席を作り過ごしていただくなどの対応を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・基本の食事時間は決めてあるが、1人ひとりの様子に合わせて臨機応変に対応している。 ・ある程度規則正しい生活になるよう手助けしつつ、入浴日、入浴時間、就寝、起床時間等決めずに、気持ちや様子に合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・少し手助けする事でひげそりや化粧水をつけるなどの身だしなみの習慣が維持できるよう支援したり、洋服も選べる事ができる方には選んでいただくなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・今現在、一緒に準備や食事、片付けができる方がおらず、複雑な行程が入る事は行っていない。例えば、簡単なおやつ作りを行う際、かきまぜるなどの簡単な作業において、参加していただくよう促している。	大晦日のそば、お正月のおせちなど季節の行事食、テイクアウトやお誕生会のケーキを取り入れ、食事がより楽しみとなるよう支援している。おやつ作りを一緒に行い、利用者のほり合いになっている。敷地内の畑でとれた野菜を食材として利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分摂取量が少なくなりがちな方は、量を詳しくチェックしている。本人のコップに150～200mlの目印をつけ、必要に応じた水分量を摂取できるようにし、記録に残して把握している。 ・食事摂取量が少ない方は、嗜好品や栄養補助飲料を用意し、召し上がっていただくなどの対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・できる方には歯磨き・うがい等自力で行っていただき、難しい方は介助にて行っている。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・利用開始時の情報を基に対応、様子観察を行い、尿量や尿意等の排泄パターンによって調整を図るようにしている。例えば常時オムツ対応だった方に対して日中のみりハビリパンツ使用でトイレ対応に変更したり、常時見守り・付き添い対応だった方のトイレ内にパット類を準備し、自力でのパット交換、後始末ができるように工夫している。	排泄パターンの把握に努め、表情に注意し適時声掛けし、トイレで排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・本人、家族と相談の基ヤクルトを注文したり、水分補給を促している。また、受診時、酸化マグネシウム等の処方相談をしていただけよう家族に伝えている。個々に応じた対応により排便のコントロールができています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・曜日を決めず、基本的に週2回、気持ちが向くときに入浴支援を行っている。体調面、入浴の拒否の有無などを踏まえた上で、無理なく行っている。どうしても難しい場合は、状況に合わせてシャワー浴、清拭、手浴・足浴等も併せて対応できるようにしている。	午前または午後に、職員が1対1で入浴介助をしている。利用者はリラックスした状態で、職員との会話を楽しんでいる。ゆず湯や菖蒲湯で楽しめる工夫をしている。暖房でヒートショック対策をしている。入浴拒否がある場合もシャワー浴や、洋服だけ交換するなど柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・夜間入眠されない方に対して、眠れない理由を考え、入眠に繋がる対応（傾聴、オムツ交換、空腹時の補食、環境整備等）を試し、それでも寝付けない場合は無理に促さず、本人のタイミングに合わせて休んでいただく。離床中は職員との会話や自席でゆったり過ごして頂き、気持ちが落ち着くのを待つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者一人一人の薬情報をファイルにまとめ、閲覧、共有しながら対応している。薬内容が変更した際は、その都度職員間で伝達し、経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・自ら職員業務の手伝いを希望される際、安全な範囲で任せられる事を一緒に実施している。（テーブル拭き、洗濯物たたみ、簡単なお菓子作り等） ・歌が好きな方に合わせて、希望される音楽番組やCDをかけ、視聴を楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・地域からのイベント案内があった時はお知らせし、希望がある方の外出支援を行っている。（花見、小学校運動会、秋祭り等）外出時は、感染予防対策、熱中症対策に配慮しながら対応を行っている。	千住山公園へ花見に行ったり、地域の夏祭りに出かけている。家族対応で、親族の葬儀、お墓参りにも出かけられるよう支援している。敷地内の畑で収穫を見たり、手伝ったりして、外出しなくても気分転換を図れるようにしている。	

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在利用されているご利用者においては、所持されている方はおらず、事務所にて管理している。今後必要であれば、外出の際など実際に本人が使用できるよう検討したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・現在利用されているご利用者からの希望はなく、主に家族側希望にて面会を中心に対応を行っている。家族によってはテレビ電話、リモート面会等を希望され、随時サポート対応を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に合った飾り、壁面装飾等をご利用者と共に作成し、フロア、廊下への飾り付けを行っている。 ・希望される方に合わせて音楽を流したり、窓際で日光浴をしながらゆったりと過ごして頂いている。	加湿器・エアコンを適切に使い、快適な温湿度に保たれている。十五夜などの飾り付けがなされ季節を感じることができる。テレビや音楽をかけ、居心地がよい共用空間となるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・その日、その時の状況に合わせ、広いテーブルで大人数で使用していただいたり、テーブルを話して一人で静かに過ごしていただいたり対応している。ご利用者間の関係性に配慮しながら、好きな場所で過ごして頂けるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・洗面台とクローゼットは備え付けで、家具は本人が居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談しながら持ち込んでもらっている。テレビを置いている方もいる。ベッドは持ち込み、若しくはレンタルにて対応している。	職員が居室の掃除、週1回のシーツ交換を行い、清潔に保たれている。家具やテレビなど使い慣れた物を持ち込み、自宅と同じように過ごすことができるよう工夫している。食事後は、リビングでテレビを見たり、居室で思い思いに過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にて転倒リスクのある方が多く、現在5部屋にクッションマットを敷いている。また、7部屋で人感センサーを使用している。その他、居室内にソファや椅子を設置し、立位・歩行時ふらつきでも掴まり、休めるように工夫している。本人の動きたい意思を尊重し、さりげなく手助けするようにしている。		